

令和7年度 第2回熊本県渋滞解消推進本部会議 議事録

日 時：令和7年（2025年）12月18日（木）14：45～15：45

場 所：県庁本館5階 知事応接室

1 開会

【進行：土木部】

定刻前でございますが、ただいまから令和7年度第2回熊本県渋滞解消推進本部会議を開催いたします。本日の司会を務めます土木部監理課の植田です。どうぞよろしくお願いたします。お手元の次第に沿って進めさせていただきます。また、本日の説明は、お手元のタブレットを利用して行いたいと考えております。説明時は、事務局にて画面共有を行い、自動でページを進めますので、操作する必要はございません。

それでは、開会にあたり、本部長の木村知事からご挨拶を申し上げます。

2 挨拶

【木村知事】

本日は、昨年（令和6年）6月に、私が知事就任後、直ちに立ち上げました、この渋滞解消推進本部、4回目（となる会議の開催）でございます。庁内関係部局が連携して、この熊本県民の一番の関心であります渋滞問題の解消に向けた取組みを着実に進めていきたいと思います。

7月に開催いたしました前回の会議では、エリアごとの取組みの進捗、効果に加えて、セミコンテクノパーク周辺企業による時差出勤の取組みなどの進展を確認させていただきましたが、その後も様々な動きがあったことは皆様もご承知の通りと思います。

先月、一番の要であり、渋滞のほとんどを占める熊本市、道路管理者であります大西市長とですね、トップ会談を行いまして、10月に開通した西環状道路の効果（速報値）や、新たに第二空港線の渋滞対策に取り組んでいこうと（確認したところ）。また、1万人のオフピーク通勤の実施状況などについて、意見交換を行ったところでございます。その中で、県と熊本市が連携して、様々に、都市圏全体で渋滞解消に取り組んでいくということを確認したところでございます。

ただ、熊本市だけではありません。やはりそのセミコンテクノパーク周辺、熊本市以外の周辺市町も、深く関わる問題でございますので、都市圏一体となって取り組まないと持続的な改善には繋がりません。

本日の会議で、これまでの進捗と成果をしっかりと共有して、県民の皆様、渋滞解消に向けて、私たちが行っている対策をしっかりとお届けする。そして認知していただくとともに、渋滞が少しずつでも改善しているんじゃないかと実感していただけるようにこの進捗・成果を積極的に発信して、今後の取組みを加速化させていきたいと思っております。県民の皆さんの「見える不満」であり、また、長年の懸案でありますこの渋滞問題の解消に向けた取組みをさらに全庁一丸となって加速させて、県民皆が安心して

笑顔になれる熊本づくりを行っていかうと思います。本日の会議もよろしくお願ひいたします。

3 議題

【進行：土木部】

ありがとうございました。

それでは次第に従ひまして、まず、「これまでの振り返り」について、事務局から報告いたします。

○ これまでの振り返り

【事務局】

事務局です。資料の3ページをお願いいたします。

昨年6月に渋滞解消推進本部を設置して以降、赤枠で示すように3回の本部会議を開催しております。下から2段目、前回7月の会議では、渋滞対策の取組みの進捗・効果をエリアごとに確認するとともに、行政だけではなく、セミコン周辺の企業でも、時差出勤などの取組みが進展し、官民連携による対策の推進を確認しました。

また、周辺市町との連携につきましては、昨年度に熊本市やその周辺市町とのトップ会談を実施し、今年度は、先月、熊本市長とのトップ会談を開催しております。県と熊本市が緊密に連携し、都市圏全体で渋滞解消に取り組むことを確認したところです。

4ページをお願いします。

こちらの表は昨年12月の第2回熊本県・熊本市調整会議において、熊本市と共有した具体的な対策目標を示しております。短期は3年以内、中期は10年以内を目標とする内容となっております。この取組み方針のもと、都市圏周辺市町とも連携し、取組みを推進しております。

5ページをお願いいたします。

こちらの図は、先ほどご説明しました取組み方針の位置図となっております。上部の薄いオレンジ色のエリアで示すセミコン周辺エリア、それから都市圏東部エリアにおいて30箇所の交差点改良や信号制御の最適化、公共交通の利便性向上や利用促進などに取り組んでいます。

「これまでの振り返り」については、以上となります。

○ 主な取組み成果

【進行：土木部】

ありがとうございました。次に「主な取組み効果」について土木部、企画振興部からそれぞれ報告をお願いします。

【土木部長】

土木部です。7ページをお願いします。

短期施策として進めております交差点改良のうち、今月2箇所の対策が完了いたしました。7ページ、8ページでそれぞれの交差点における対策内容と整備後の効果についてご報告したいと思います。

まず、7ページでございますが、竹迫北交差点についての内容でございます。左右の写真は同一ポイントで撮っている写真です。左側が対策前、右側が対策後という形になっております。本交差点は、合志市役所から北へ2キロの位置にありまして、写真上側の熊本市方面からセミコン方面へ右折する車両が多く、既存の右折レーンの長さが足りていないというような状況でございます。直進車の通行が阻害され、渋滞が発生しているところですので。このため、車道を広げて、右折レーンを60メートル延伸する改良を実施しました。対策前と比べ、右折車による直進車の阻害が解消され、朝の通勤時間帯には、滞留長が最大で約130メートル減少したことを確認しております。

8ページをお願いいたします。

次に、竹迫交差点について、ご説明します。本箇所は先ほどの竹迫北交差点から約300メートル南側に位置しておりまして、こちらの交差点でも既存の右折レーンの長さが足りていないことから、直進車の通行が阻害され渋滞が発生していたということで、こちらも車道を広げ、右折レーンを80メートル延伸する改良を実施しました。対策前と比べ、朝の通勤時間帯は、滞留長が最大で約650メートル減少したことを確認しております。また、この二つの交差点につきましては、ハード整備に加え、交通管理者による信号制御の見直しも併せて行っていただいております。両交差点とも渋滞が大きく緩和され、車両の流れがよくなっております。

ここで、対策前後の状況がわかるドローン映像をご覧いただきたいと思います。前方のモニターをご覧ください。竹迫交差点の映像ということです。画面の左側が対策前で、右側が対策後になります。いずれの時間帯も朝8時ごろになります。

それでは、再生いたします。対策前の左側では、右折車両が直進車の流れを阻害し、渋滞が発生しております。対策後の右側では、右折車両が右折レーン内に収まっており、直進車がスムーズに流れている様子が確認できるかと思います。さらに、動画右奥の交差点をご注目ください。こちらの交差点を見ますと、対策前は、竹迫交差点からの車両が次の交差点まで繋がっており、速度低下が発生していますが、対策後の右側では、円滑に流れている様子が確認できるかと思います。以上、整備効果でございました。

【企画振興部長】

企画振興部です。9ページをお願いいたします。

オフピーク通勤の効果について説明をいたします。

時差出勤等の県民運動化に向けて、5月8日に熊本県渋滞対策パートナー登録制度を創設いたしました。本制度は、時差出勤などの通勤行動変容の取組みや、公共交通機関の利用促進など、主に「交通量の分散」、「交通量の抑制」、「公共交通サービスの提供」といった取組みを行われている民間企業等の申請に基づいて、渋滞対策パートナーとして登録し、取組みの拡大を図っていくことで、交通渋滞の解消を目指す取組みであります。

令和7年度は、9月30日までに275社に登録いただきました。今後の取組みといたしましては、各パートナー登録事業者の取組みの横展開を推進するため、引き続き、熊本市と連携し、優良な取組みを表彰する制度の検討を行って参ります。

10ページをお願いします。

熊本都市圏における交通は、午前7時半から8時半までの朝ピーク時間帯に集中しており、この時間帯の交通量を分散させ、交通渋滞を緩和することを目的に、昨年度に実施した県・市職員による時差出勤等の取組みに加え、今年9月には、渋滞対策パートナー登録制度登録事業者の皆様方にもご協力をいただき、官民連携での時差出勤や在宅勤務への集中的な取組みを行いました。

令和7年度は、熊本都市圏を中心に、官民含めて1万人規模で時差出勤に取り組むことを目標に掲げておりましたが、結果として、1日当たり10,687人の方にご協力いただき、目標達成となりました。

次ページよりご紹介いたしますが、当該取組みについては、データを用いた効果測定を実施した結果、オフピーク通勤が渋滞緩和に一定の効果があることが確認できましたので、引き続き、取組みを実施していただけるよう、効果測定結果をわかりやすく見える化し、発信をして参ります。

11ページをお願いいたします。

こちらは、オフピーク通勤の取組み者数をエリアごとに集計し、地図に落とし込んだ資料となります。企業が集積しております、熊本市中央区では、県庁及び熊本市役所を含め、約4,500人の方にオフピーク通勤に取り組んでいただきましたが、注目していただきたいのは、セミコンテクノパーク周辺でも同程度の方々に取り組んでいただいたということです。

取組みにご協力いただきました事業者様におかれましては、改めて感謝を申し上げます。

12ページをお願いいたします。

ここから、9月に実施いたしました、1万人のオフピーク通勤に関する効果測定の結果についてご説明いたします。

前述いたしましたとおり、令和7年9月1日から30日の期間で、官民合わせて、1日平均で10,687人の方に取り組んでいただきましたが、熊本都市圏全体を面で見ますと、特に都市圏北東部において、一部の道路で車両の平均速度が向上していることが確認できました。

13ページをお願いします。

詳細な効果測定結果について、主要渋滞箇所のうち、特に効果が確認できた交差点を5地点ご説明いたします。

まず1箇所は、国道443号と、県道熊本益城大津線が交わる大津町下町交差点です。パートナー登録事業者が集積しております方面に向かう3方向を合わせ、午前7時半から8時半までの朝ピーク時間帯の交通量が昨年同月と比べ約7%減少した他、車両の平均速度の向上が確認できました。

14ページをお願いいたします。

2 箇所は、県道熊本益城大津線線上にございます、東町 2 丁目交差点です。パートナー登録事業者が集積しております方面へ向かう 3 方向を合わせて、朝ピーク時間帯の交通量が昨年度同月と比べ、約 14%減少した他、車両の平均速度の向上が確認できました。

15 ページをお願いいたします。

3 箇所は、国道 57 号、通称東バイパスと、県道熊本高森線、通称電車通りが交差し、ます神水交差点です。パートナー登録事業者が集積しております方面へ向かう 2 方向を合わせ、朝ピーク時間帯の交通量が昨年度同月と比べ、約 8%減少した他、車両の平均速度の向上が確認できました。

16 ページをお願いします。

続いて 4 箇所は、国道 266 号、通称浜線バイパスと熊本市道の平成けやき通りが交わります田迎 6 丁目交差点です。パートナー登録事業者が集積しております方面に向かう 2 方向を合わせ、朝ピーク時間帯の交通量が昨年度同月と比べ約 26%減少した他、車両の平均速度の向上が確認できました。

17 ページをお願いいたします。

最後に 5 箇所は、国道 325 号と、県道大津植木線が交わります室（北）交差点です。パートナー登録事業者が集積しております方面に向かう 3 方向を合わせまして、朝ピーク時間帯の交通量が昨年同月と比べ約 26%減少した他、車両の平均速度の向上が確認できました。

以上のとおり、官民連携による時差出勤の取組みは、平日の朝ピーク時間帯における渋滞緩和に一定の効果があったと考えております。

今回の結果につきまして、わかりやすく県民の皆様にお示ししていくことで、根拠ある渋滞対策として、時差出勤を広く浸透させ、効果の持続化に向けて引き続き取組みを継続して参ります。

○ 各施策の捗報と今後の取組み

【進行：土木部】

ありがとうございました。次に「各施策の進捗と今後の取組み」について、事務局及び各部から報告をお願いいたします。

【事務局】

19 ページをお願いします。

まず、現在取り組んでいます施策全体の状況についてご報告いたします。図中の赤色や、ピンクで示している部分が現在、国や県、市町の実施中の取組みでございます。赤い線が道路整備、実線の丸が交差点改良、四角はバスベイ、点線の丸やピンクの線は公共交通政策を示しております。完了した取組みにつきましては、黒い色の線や丸、四角、で示しております。このように、都市圏の東部、北東部を中心に対策を進めております。

右上の表は、現在取り組んでいる交差点改良の進捗状況で、すでに 30 箇所、すべてに着手しており、そのうち 11 箇所が完了しております。県が担います、残り 16 箇所につきましては、来年度までにすべて着工する予定となっております。

20 ページをお願いします。

こちらは、道路施策のうち、セミコン周辺エリアにおける取組み箇所を示した位置図となります。国・県・市町が連携し、周辺道路の整備を集中的に取り組んでおります。

21 ページをお願いします。

こちらは公共交通施策の取組み箇所を示した位置図となります。赤色の線が J R の路線を示しております。J R 豊肥本線の沿線では、セミコン周辺エリアへの通勤バスや南熊本駅からの快速バスに加えて、図には載せておりませんが、シェアサイクルなど 2 次交通の充実にも取り組んでおり、沿線自治体や事業者等と連携して進めております。全体の状況についての説明は、以上となります。

【土木部長】

土木部です。22 ページをお願いいたします。

こちらは、短期的に進めております交差点改良 19 箇所の進捗状況についてご説明させていただきます。先ほどご報告した通り、③及び④の交差点の対策が 12 月に完了し、これで対策完了箇所は、現在 3 箇所となっております。①、⑧、⑩、⑫、⑬、⑱、この 6 箇所につきましては、設計が概ね完了しており、いずれも今年度中の着工を予定しているところです。残り 10 箇所の交差点につきましては、交通管理者との協議や用地交渉を進めておりまして、来年度着手の予定でございます。

23 ページをお願いいたします。今年度着工予定の 6 箇所の交差点のうち、菊陽町にあります、曲手交差点の対策を代表事例としてご紹介させていただきます。

本交差点は、国道 443 号と県道曲手原水線及び国体道路が交差する箇所で、角に、きくちのまんまのお店（J A さん）が立地する交差点でございます。本交差点では、右側の空港方面から大津方面に右折する車両、また、左側の菊陽町方面から国体道路へ右折する車両、これは朝の時間帯が空港方面から大津方面で、夕方が菊陽方面からこの国体道路という形でともに右折車両が多いということで、まず、国道 443 号におきまして、右折レーンの延伸、次に県道曲手原水線においては、右折レーンの増設を行う計画としております。

これによって、右折車による直進車の障害が解消され、曲手原水線の滞留長が最大で 200 メートル減少すると予測しているところでございます。以上です。

【県警本部長】

24 ページをお願いします。

警察の取組みについてご説明をいたします。県警察では、渋滞対策として信号機の集中制御化、光ビーコン車両感知器の設置などによる信号制御の最適化を推進しております。今回、菊地南部地域におきまして、令和 6 年度整備の効果検証を行いましたので、その結果について説明いたします。効果検証は、スライド記載の 5 つの路線におきまして、整備前後の任意の 1 日を設定し、朝方と夕方、往路、復路の実装を行いまして、整備前後の所要時間の平均値を比較しております。

25 ページをお願いします。

検証結果でございます。今回検証した5つの路線は赤い線で示しておりまして、進行方法の別、朝方、夕方の別がありますので、合計20種類の結果を吹き出し内に示しております。結果全体を見ますと、20種類のうち6割にあたる12種類において、所要時間が短縮しましたが、残る8種類は、所要時間が増加しております。エリア南部にある路線⑤や、西部を南北に走る路線④においては、所要時間がほぼ短縮しておりますが、中央部を東西に走る路線①や、同路線に通じる路線②路線③においては、朝方における所要時間の増加が目立つ結果となっております。

この要因につきましては、明確に特定することは困難ではありますが、信号制御の最適化、交差点の改良、時差出勤の推進等による交通の量や流れが変化するなど、様々な要因が影響しているものと思われまます。特に、エリア中央部にある県道大津植木線の交通量が増加していることが確認されますので、外周の路線が流れやすくなって、その大津植木線に車両が集中して、所要時間の短縮には繋がらなかったものと考えられるところでありまます。

同路線につきましては、今後も継続して、交通状況の変化を注意深く確認しながら、必要な調整を図り、円滑な流れを確保していきたいと考えております。

26ページをお願いします。

ここで信号制御の流れについてご説明いたします。スライド左側に記しております通り、警察本部にある交通管制センターでは、光ビーコンや車両感知器によって、リアルタイムに収集された交通状況のデータを、コンピューターで分析し、最適な信号サイクルなどを選択して、各信号機に指令しております。本システムを集中制御方式と呼んでおります。管制センターのコンピューターでは、スライド右側上部に記載した通り、各交差点における曜日や時間帯における交通量に応じた最適な青時間を設定して、効果的な集中制御を行っております。

今後の取り組みといたしましては、今年度は、①国道3号、通称白山通り、国道325号等における信号制御の最適化を実施しているところでございます。また、②に記載の通り、交通渋滞対策支援システムの導入を進めております。これは、民間のプローブ情報、走行車両の位置等の情報でございますが、これで渋滞状況を把握・分析し、信号制御の設定に活用するものでございます。導入は来年の1月を予定しております。県警察におきましては、今後も関係機関と連携しながら、より最適な信号整備を推進することで、渋滞解消に向けて取り組みを進めて参りたいと考えております。以上でございます。

【土木部】

土木部です。27ページをお願いします。

こちらからは、バスベいの整備についての内容でございます。整備予定箇所10箇所のうち、国道387号にあります、御代志駅付近の①、②、「再春医療センター前」の上り下りの2箇所が、11月に完成しております。右上の写真の通り、バスベいがないことにより、後続車の滞留が発生している状況の中での整備でございます。下側の写真が、①、②の対策前後の写真ということで、対策後の写真を見ますと、バス停にバスが停車し、後続車がスムーズに通行している状況が確認できます。また、残り8箇所は、現在、設計を進めておりまして、このうち4箇所については、今年度中に着工する予定です。

28 ページをお願いいたします。

こちらは、今年度着工予定の菊陽町にある「南方バス停」を代表事例としてご紹介させていただきます。右図のように、バスペイを整備することで、前ページにお話ししました通り、同様に、後続車がスムーズに通行できることが期待されるといったところでございます。

29 ページをお願いいたします。

こちらは、熊本地震からの復旧復興を目指す「県道熊本高森線の4車線化」の整備の状況でございます。左の写真は、惣領交差点付近の整備状況で、今年度末の全線供用の予定し、現在は、道路改良や舗装を進めているところです。

右下の写真ですが、益城町では、4車線化にあわせまして、バス停の近隣に駐輪場を整備し、屋根の設置など、利便性の向上を図っており、サイクルアンドライドの取組みを推進しているところでございます。

30 ページをお願いします。

次に、セミコンテクノパーク周辺における道路ネットワークの整備の進捗状況についてご説明いたします。まず、「大津植木線 辻久保工区のバイパス」の整備についてです。本工区につきましては、2日後の12月20日に開通式を開催する予定としております。本路線と国道387号が交差する、辻久保交差点周辺の渋滞緩和や、移動時間の短縮といった整備効果が期待されているところでございます。なお、開通後1ヶ月後には、整備効果の検証を実施する予定としております。

31 ページをお願いします。

こちらは、県道新山原水線の内容についてでございます。本路線は、セミコンテクノパーク周辺と国道57号を結ぶ新たな縦軸としてバイパス整備を進めているところです。右側の③、④の写真の通り、現在、県道の熊本菊陽線とJR豊肥本線を跨ぐ橋梁の上部工工事や道路改良工事を進めているところです。引き続き、来年度の開通を目標に工事を推進して参ります。

32 ページをお願いします。

こちらは、「大津植木線の多車線化」、「合志インターチェンジアクセス道路」についての内容でございます。位置図に示しております、JASM前を通ります、大津植木線の多車線化と、大津植木線と中九州横断道路を接続する合志インターチェンジアクセス道路につきましては、今年の9月23日に両路線の着工式を開催したところです。

資料下の写真の通り、現在、JASM前や立体交差点などの工事を進めているところです。引き続き、令和10年度の完成を目標に、用地買収や道路改良工事を推進して参ります。

33 ページをお願いします。

国により整備を進められています「中九州横断道路」についてです。中九州横断道路は、セミコンテクノパーク周辺や熊本都市圏の渋滞対策にも寄与する道路ネットワークの中心的な路線です。

現在、国において、異例のスピードで整備を進めていただいているところです。「大津熊本道路」の大津西から合志間では、次の日曜日ですね、今月21日に着工式が開催される予定です。また、「大津西インターから下硯川インター」間につきましては、早

期整備に向け、有料道路事業の導入を国に提案しております。県では、有料化に伴い必要となる道路施設の区域を定める都市計画の変更手続きを 12 月 5 日に完了したところです。

引き続き、有料道路事業の導入について国に要望を行うとともに、大津熊本道路の事業用地の先行買収等を進め、早期整備につなげて参ります。

34 ページをお願いします。

次に、熊本都市圏 3 連絡道路の取組み状況についてです。熊本市中心部から高速道路インターチェンジまでを約 10 分、熊本空港までを約 20 分で結ぶ 10 分・20 分構想を実現するため、ルートや道路構造、有料道路制度の活用を含めた事業手法など、国の支援をいただきながら、熊本市と連携し、調査、検討を行っております。

また、計画の具体化に向け、住民参加型の道路計画検討を進めておまして、5 月から 8 月にかけて実施しました、住民の皆様を対象とした、地域や道路の課題に関するアンケート調査については、1 万 9 千件を超える回答をいただきました。

現在、その分析を行っております、今後、いただいたご意見を踏まえ、政策目標を決定し、決定した政策目標や技術的検討を踏まえ、複数のルート対案を提示していくこととしております。以上です。

【県央広域本部長】

県央広域本部です。35 ページをお願いします。

道路施策その他の取組みということで、まず、県民総合運動公園でですね、大規模イベント時の渋滞解消のためということで、新規の駐車場整備を進めております。パークドーム南側に新規駐車場 1000 台程度、広さ約 3.5 ヘクタールを計画しております。計画地には、筆界未定の区域がありましたけれども、熊本市や地権者のご協力があり、本年 10 月に境界を確定しまして、現在、詳細設計や関係者との協議を実施しております。本年度中に用地買収を開始する予定ということにしております。

36 ページをお願いします。

熊本都市圏南部の渋滞に関する件でございますけれども、県道小川嘉島線の道路整備期成会からの要望ということですが、都市圏南部の市町によりまして、もう以前から要望がなされておりますけれども、国道 266 号に集中してる交通の分散ですとか、そういったことで渋滞解消を担っていこうということがございます。

また、本年 8 月の豪雨で甲佐町から熊本市方面に向かう県道嘉島甲佐線が冠水で全面通行止めとなったということもございまして、災害発生時の代替ルートとしてもですね、小川嘉島線の整備を強く要望されております。

現在、ネットワーク上の機能・役割や整備効果、事業性などについて、熊本市と協議を重ねておまして、引き続き早期整備に向けて取組みを進めて参ります。以上です。

【企画振興部長】

37 ページをお願いいたします。

公共交通施策としまして、利便性向上及び利用促進に関する取組みの情報発信について説明をいたします。

9月に開催されました、「日本モビリティ・マネジメント会議」や、11月に開催されました、「交通くまもとーく」に参加し、渋滞対策の取組みとして時差出勤や、公共交通の利用促進などの県市連携での取組みをポスター発表いたしました。

引き続き、イベントなどの機会を有効に活用し、少しでも取組みを認知いただけるよう、情報発信を行って参ります。

38 ページをお願いいたします。

公共交通の利便性向上に向けた供給力増強に向けた取組みについて説明をいたします。

公共交通への展開を図る上では、担い手の確保が急務であります。バス運転士の給与水準は、他業種の平均よりも低い傾向にあり、近年の人手不足の中、確保が難しい状況です。

そこで県では、令和6年度より、県内路線バス事業者5社が実施する大型自動車第二種免許取得への支援など、人材確保に関する取組みに対し財政的支援を実施しており、今年度までの2ヵ年で、路線バス事業者5社合わせて148名の新たな運転士の確保に繋がっております。

また、鉄道事業者でも状況は同様です。運転士不足により、減便運行を行っております肥薩おれんじ鉄道においては、各種就職フェアに積極的に参加されたり、沿線内外の高校への直接のリクルート活動を実施されたりと、運転士確保に向けて、事業者独自の取組みも実施をされております。

県といたしましても、これらの支援の継続とあわせ、運転士の処遇改善を図るべく、新たな公共交通の枠組みである交通連合の創設に向けた検討を進め、輸送力の増強に向けて各事業者と連携して取り組んで参ります。

39 ページをお願いいたします。

県では、持続可能な公共交通の実現に向けて、「熊本県地域公共交通計画」を策定しており、現行計画は今年度で計画期間が終了となるため、次期計画の策定を進めています。

次期計画では、「公共交通の利便性・持続可能性を高め、誰一人取り残されず、マイカーに頼らずに、行きたいときに、行きたいところへ不自由なくアクセスできる社会」の実現を将来ビジョンとし、ビジョン実現のための基本方針として、「①交通資源の総点検と最高効率」、「②投資による供給力の強化」、「③公共交通の運営体制等の整備・必要な財源の確保」の3つの方針を掲げ各個別施策を整理していく予定です。

特に都市部において、自家用車から公共交通への転換を促すため、朝夕のみならず、日中もダイヤを意識せずに、ストレスなく移動できる水準でのサービス供給を目指して参ります。

利便性の高い公共交通を実現するためにも、行政の公的投資方針の明確化や、交通モードごとの最適な運営について議論を進め、公共交通の利便性を向上し、利用促進につなげて参りたいと思います。

また、土木部の熊本都市圏都市交通マスタープランの策定とも連携しながら策定を進めたいと考えております。よろしく申し上げます。

40 ページをお願いいたします。

その他の公共交通施策について、ご説明をいたします。

シェアサイクルの利用促進として、チャリチャリ株式会社と包括連携協定を令和5年3月に締結し、熊本都市圏におけるエリア拡大に努めております。

本年9月には、熊本市及び菊陽町の取り組みにより、熊本エリアと菊陽エリアの接続が実現し、さらなる利用の拡大が行われております。

共同経営推進室では、バスの通勤利用を促進するため、12月から来年2月の3ヶ月間、熊本市東区八反田方面から市中心部の方を結ぶ、朝の快速バスを運行されており、自動車からの転換を促進する取り組みとなっております。

最後に、阿蘇くまもと空港への輸送力強化の取り組みです。県を中心に運行している、空港ライナーでは、年々利用者数が増加している中で、積み残しが発生しないよう、運行委託事業者と連携し、応援便の運行など、安定した運航に向けて日々取り組んでおります。

九州産交バス株式会社が運行されております空港リムジンバスでは、増加する空港需要に対応するため、7月のダイヤ改正に合わせて便数の増便を実施されました。

この後事務局から説明をいただきます、「周辺市町と連携した主な取り組み」にも掲載されておりますけれども、益城町と西原村が連携して本年10月から1年間の実証運行に取り組まれている「益城・西原空港ライナー」については、両町村が阿蘇くまもと空港を交通のハブとして捉え、地域住民の生活交通を兼ねた新たな空港へのアクセス手段として県の補助を活用して運行を開始されております。

引き続き、公共交通の利便性を向上させ、自動車に頼らなくてもよい交通体系の実現に向けて、各事業者等と連携し支援を行って参ります。

【県北広域本部長】

県北広域本部です。資料の41ページをお願いします。

まず、今年度の新たな取り組みとして、10月1日から、大津町内からセミコンテクノパーク方面への通勤バスの実証運行を開始いたしました。概要につきましては、資料左下にまとめております。実施主体は大津町及び菊陽町で、九州産交・熊本電鉄等に協力をいただいております。朝3便、夕方3便の計6便の運行で、10月の利用者は609人で、1日当たり27人となっております。大津町内とセミコンテクノパーク方面の間を回遊するようなルートとなっております。詳しくは、資料右下の地図をご覧ください。

今後さらなる利用者拡大に向けて、町や関係団体と協力して参ります。

次に資料42ページをお願いいたします。

資料左下に原水駅からセミコンテクノパーク間を走るセミコン通勤バスについて記載しております。今年度5月から朝、夕に加えて、昼便の実証運行を実施しております。当初、8月までの約3ヶ月間の実証期間を想定しておりましたが、利用者が少しずつ増えてきていることから、今年度末まで延長することになりました。

また、これまで一律180円であった、運賃の改定があっており、10月1日より一律210円となっております。利用実績としましては、今年度4月から10月までの7ヶ月間で延べ20万5090人、1日当たり1403人の利用となっております。昨年度と同水準の乗客数となっております。

資料右下には、肥後大津駅から本田技研工業間の通勤バス実証運行について記載しております。こちらにも運賃改定があっており、これまで 180 円から 250 円であった運賃が、10 月 1 日からに 210 円から 290 円となっております。利用実績としましては、今年度 4 月から 10 月までの 7 ヶ月間で延べ 2 万 2011 人、1 日当たり、155 人の利用となっております。

なお、今回ご報告した 3 つの取組みについて、1 日当たり約 770 台分の通勤自動車削減に寄与していることが推計されます。今後とも県北地域における通勤バスの長期継続運行に向けて支援して参ります。以上でございます。

【企画振興部長】

43 ページをお願いいたします。

公共交通の輸送力強化と基盤整備について説明いたします。

県と J R 九州は、10 月 31 日に共同記者会見を開き、空港アクセス鉄道の運行形態や快速運行の導入等に加え、行違い化等の豊肥本線の輸送力強化の実施について合意したことを発表しました。

また、豊肥本線の輸送力強化については、7 月 18 日に「J R 豊肥本線輸送力強化促進協議会」を設立し、豊肥本線の現状や課題、各市町の取組みなどについて意見交換を行いました。

今後は、ダイヤ改正に合わせた輸送力強化の実施や豊肥本線の将来像の検討を進めて参ります。

空港アクセス鉄道整備に向けては、今月 21 日から、都市計画素案に係る住民説明会を大津町と益城町において開催し、鉄道ルートを示すこととしております。

引き続き、令和 9 年度の整備着手を目指し、着実に取組みを進めて参ります。以上です。

【商工労働部長】

44 ページをお願いいたします。

商工労働部から、渋滞解消に向けまして、官民連携の取組みで、知事のご挨拶の中にも触れられましたが、セミコンテクノパーク周辺企業によります渋滞対策に向けた取組みをご報告いたします。左の方を見ていただきますと、昨年、令和 6 年 8 月から、関係行政機関企業などに寄りますセミコン交通対策協議会の企画会議というのを設置しておりまして、時差出勤や在宅勤務推進などのソフト対策、自社バスの運行とか、公共交通の利用促進など渋滞解消に向けた様々な取組みについての情報共有とそれに関連する協議を行っています。その取組みのひとつとしまして、セミコンテクノパーク内の企業全体で、通勤時は幹線道路のみを通るように指定をして、生活道路や通学路となっている道路などは、通行禁止或いは通り抜け禁止とすることを申し合わせています。資料右の上側にですね、通行禁止道路や通り抜け禁止エリアをお示ししております。その赤く塗っているところがございます。ブルーのところは、通行指定道路と言いまして、ここを通行するよというこの申し合わせでございます。また、この取組みの実効性

を上げますために、セミコンテクノパーク内の企業の従業員の皆様が実際に現場に赴いて見まわるといった活動も実施しているところです。右下の写真の通りでございます。

今後も新たな開発、また工場建設も予定されておりますので、引き続き、工事車両の動向や道路施策、新たな交通規制の情報共有、公共交通の利用促進、交通安全対策の実施など、官民連携で推進して参りたいと思っております。以上です。

【事務局】

事務局です。45 ページをお願いします。

周辺市町と連携した主な取組みについてご説明いたします。図には、昨年度トップ会談を実施した熊本市、合志市、菊陽町、大津町、益城町、嘉島町の主な取組み内容を記載しております。このうち、赤の破線で、囲んだ取組みでございます、「連携した取組み①、②」についてご説明いたします。

46 ページをお願いします。

こちらは、県、合志市、菊陽町、大津町が連携して進めている取組みです。道路施策では、各市町が右図の青で示す区間の整備を進められておりました、菊陽空港線では、県事業と連携し、令和8年度の完成に向けて整備が進められております。公共交通施策では、原水駅や肥後大津駅において、通勤バスの運行が進められ、各市町でも、時差出勤等の取組みが推進されております。

47 ページをお願いします。

こちらは先月の熊本市との会談で確認した第二空港線の円滑化に向けた取組みです。県・熊本市・益城町・県警が連携し、朝夕の深刻な渋滞への対応を進めることとし、今月初めには、益城町を加えた関係者会議を実施しており、今後も関係者が連携して取組みを推進して参ります。

48 ページをお願いいたします。

その他、市町の取組みとして、益城町と嘉島町の取組みをご紹介します。両町の道路施策は、左上に示す通りの道路整備が進められております。右側の公共交通施策では、益城町において、A I オンデマンドバスの運行や空港ライナーの実証運行が実施されており、A I オンデマンドバスでは、1ヶ月で約千人程度、1日平均約30名の利用があるということで好調でございます。

今後も都市圏周辺市町とも、渋滞対策についての協議・検討を進め、連携した取組みを拡大し、都市圏が一丸となって、渋滞解消に向けた取組みを推進して参ります。

最後に、熊本市の取組みについて参考資料として掲載しております。

49 ページをお願いいたします。

こちらは、熊本西環状道路の開通効果について、先週の市議会で報告された内容となっております。右側、地図の赤線で示す池上工区が去る10月19日に開通し、グラフで示します、開通1週間後の交通量調査では、12時間の交通量が池上工区で約1万台、黒の実線で示す花園工区で約1万6千台が確認されております。概ね計画通りの交通量となっております、所要時間の短縮や渋滞緩和の効果が現れているものと推測されます。

50 ページをお願いします。

続いて公共交通施策です。上段は、南熊本駅と桜町バスターミナルを結ぶ快速バスの実証実験を来年1月13日から1ヶ月間実施される予定となっております。これにより、JR新水前寺駅の利用者分散や、基幹公共交通軸の強化、さらには、南熊本への人流の創出に繋がるものと期待されております。

また、下段に示す、シェアサイクルにつきましては、先ほど企画振興部長からご説明があった通り、エリアが拡大されておまして、今後も、ポート増設によって二次交通のさらなる充実が図られる見込みです。都市圏の渋滞解消に向け、熊本市とも、引き続き連携しながら取組みを推進して参ります。事務局から以上です。

【進行：土木部】

ありがとうございました。
本日の議題については以上です。

4 意見交換

【進行：土木部】

次に、意見交換に移らせていただきます。
各部からその他、ご質問やご意見等はございませんでしょうか？
よろしいでしょうか。
それでは、両副知事からご意見をいただきたいと思えます。まずは竹内副知事からお願いいたします。

【竹内副知事】

2年目ということで、再度、全体像を皆さんと共有するとともに、今回の成果も、動画でも見せていただきましたし、県警本部の方からもデータ等も見せていただいたということで、渋滞解消に向けて進んでいるところが見えてきたと思えます。

今後も、3年でやるべきところ、もうすでに2年が経ってしまっているところではございますけれども、引き続き、市町村と連携して取組みを進めていただきたいと思えます。

【進行：土木部】

ありがとうございました。それでは、亀崎副知事からお願いいたします。

【亀崎副知事】

今日いろいろ説明を聞きまして、最初の昨年はずいぶん、どんな対策をやっているかというところで手探りの状態だったのですが、今の段階でいくと、課題も明確化になりましたけれども、効果もある程度、出てきたということで、皆さんの取組みにまず感謝いたします。

特に短期対策について、交差点改良も用地を取得しながら、機能アップしていくということで、その短い期間、本当は、1年1年で（成果が）出ていけばいいんでしょうけ

ど、難しい中に頑張ってもらっていますし、信号制御の最適化、こちらも、今日、どんなシステムで流れていくのということもわかりやすく説明していただきました。オフピークも、県と市以外で民間の方が8千名近く参加されているということで、非常に広がっているということで、皆さんのこの対策に取り組む、その力というのを感じたところです。

先ほど竹内副知事からもありましたようにもう、今、2年目に入っているということで、今日の力強い説明を聞いてですね、非常に期待が持てると思っていますので、さらにこの勢いで、次に向けて、やっていきましょう。知事も冒頭（にご発言が）ありましたが、私たちでできることには限りがあります。ただ、連携していくことによって、どんどんどんどん効果があらわれてくると思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

【進行：土木部】

ありがとうございました。最後に木村知事からお願いいたします。

【木村知事】

第4回の渋滞解消推進本部会議、ありがとうございました。皆さんから、今日かなり具体的に交差点改良の整備効果、そしてまた1万人のオフピーク通勤での成果を、データや画像で見せていただいて渋滞対策が進んでいるということが見えてきました。

特に交差点改良は、やはり、今日の動画でもありましたけれども、目に見えて効果が明確に確認できております。県として、市と約束した19箇所のうち、3箇所ですべて完了していますが、今年度で残りのうち6箇所を着工し、来年度ですべて着工するというものですので、引き続き確実にこの交差点改良を進めてください。

また、「1万人のオフピーク通勤」では、官民合わせて1万人を超える参加をいただいて、これも一定の渋滞解消のデータが見えてきましたので、これは、やはり今後、取り組んでいただいている企業を表彰する。これ前も言いましたけども、この表彰制度を設けて取り組みの継続を促していきましょう。そして、今ちょっと熊本市の中心部にベースがありますので、都市圏全体に拡大できるように、熊本市や周辺市町村とも調整して行ってください。

今回、最後の方に熊本市長とのトップ会談でお話した、第二空港線の渋滞対策、もうすでに関係者で会議を始めていただき、益城町さんも入っていただくということは、益城町の部分でも、一定の対策を講じるという座組みだということがわかってきましたので、特に「益城くまもと空港インター」の出口とか、混雑ぶりもちょっと渋滞に拍車をかけているような感じもありますので、そうした取り組みを加速させていただいて、県民の皆さんが、渋滞が改善してるなというのを感じられる成果に繋がると確信しておりますので、しっかりと取り組んでください。

また、警察からも、信号制御の件、セミコンテクノパーク周辺がかなり見えてきた。一方で、まだまだ十分でないところがあるというふうに伺いましたので、どういうところがまだ足りてないとか、または、道路管理者側に何を求めたらいいかという、実務レベルでの意見交換を（お願いしたいと思います）、今年度も国道3号とか白山通りとか、国道325号でやってくださっているということですので、そうした（実務レベルで

の意見交換)を活かしていただいて、また、次回、次々回あたりでそういうの(信号制御の成果や課題等)をご報告いただけるとありがたいなと思っております。

やはり、この渋滞問題は、県民の中の「目に見える不満」として、長年この熊本県が課題として掲げてきたことでございます。渋滞を解消することによって多くの経済効果が期待できるという、また、今の負の経済を私たちは、被っているということは、交通経済学の皆さんからも論を待たないということでございます。

また、地球環境等にも影響を与える、または、それぞれの県民のウェルビーイングにもマイナスに作用しています。さらには安心安全な暮らしにも直結する課題であります。

今日の会議で確認したこの効果の一つ一つを、さらにさらに積み上げていくこと、そして、それを県民にわかりやすく発信して、少しずつ不満を確実に解消していくことが重要でございますので、効果の見える化について、しっかり検討して行ってください。

今後とも、庁内一丸となって警察、そして国、市町、交通事業者と、そして企業とも連携して、スピード感を持って今後とも取り組んで参りましょう。以上でございます。

5 閉会

【進行：土木部】

はい。ありがとうございました。今後も関係部局と連携して、熊本都市圏の渋滞解消に向けて取り組んで参りますので、ご協力をお願いいたします。それではこれもちまして、令和7年度第2回熊本県渋滞解消推進本部会議を終了いたします。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。